

# 「経済学」 「経営学」 はこう学べ。

## 「学ぶ自由」、 「学ばない自由」

「学ぶ自由」は「学ばない自由」である。「自由」にすることは、自分がしたいことだけをするだけで、したくないことを強制されないことだ。だから、学びたくないことを強制されない「学ばない自由」がある。

経済学部に限らず、大学は高校までの生活と比べて大変自由になることが多い。毎日、朝から授業があるわけではなく、バイトも自由にできるし、車にも乗れる。夜遅くまで起きていてもしかられ

ることも少なくなる。大学生になって開放感を味わうのはどの学部にも共通しているだろう。

しかし、学部によっては、実験やその他の課題を、教員や先輩、同僚、後輩と一緒にやって次々とこなしていかなければならないところもある。夏休みを返上して、深夜まで縛られるところもある。そのような学部と比べると、経済学部ははるかに自由だ。

## 経済学部が自由な理由

どうして経済学部は自由なのだろう。それは、経済が複雑で刻々変化する現実で、その中で生きていくためには、単なる知識や技術ではない「人間力」が求められているからだだろう。机製造という特定の仕事なら、ノコギリやかなづちなどいくつかの技術を覚えていけばいい。簡単なことではないし、人によって力の差はあるが教えることはつきりしている。しかし、経済は特定の仕事に限定できない。公務員か、金融か、製造業か、それとも起業家になるのか。営業をする

# あなたの夢が決める学び方

のか、事務か、それとも企画か、人事か。

多様で、刻々変化する経済に生かせる技術を身につけたいという要望に応えることはきわめて困難である。経済学は、純粋科学であろうとして、一定それに成功しているが、しかしそれで優れた営業マンになれるわけではない。顧客の求める商品をし早く知り、その商品の正確な情報を集め、分析し、提供する。そして何よりも信頼をかちとる、総合的な「人間力」が必要である。そのためには、与えられたものを与えられた通りに受け入れていくのではなく、自ら選択し、工夫し、批判的に吸収していく必要がある。覚えた知識だけでなく、知識を吸収するために使った積極性、創造性、そして教員や友人等とのコミュニケーション力が役に立つ。だから経済学部のカリキュラムは、あなた達の自由な選択でできるだけ保障しようとしている。

## 夢が決める学び方

経済学をどう学ぶかは、学ぶ者の夢が決める。大学卒業という肩書きだけが必要な者は、最小の努力で必要単位だけを取るという学び方を選択するだろう。ここで注意しておきたいことがある。楽に単位が取れるという情報には、デマが入り込んでいる可能性がある。そして、大学卒業という肩書きだけで受け入れてくれるほど社会は甘くないかもしれない。

経済学を一通り勉強したい者は、ガイダンスやシラバス、あるいはこの小冊子にしっかりと目を通し、わからないことは積極的に質問するこ

とだ。先輩も良いが、教員に直接聞くのが良い。講義の終わったあとでも良いし、ホームページで来室しても良い時間を掲載している教員もいる。公務員試験、大学院進学など受験を目指す人は、とくに早い段階で教員に相談に行くことが必要だ。

## 提供されるメニュー、 結果として受け取る 自らの成果

あなた達には、豊富な経済学のメニューが提供されている。そのメニューをどのように選択するかはあなた達が決める。夢を叶えるメニューを選択し、創造的に吸収していくこともできる。しかし、最初に述べたように、「学ぶ自由」は「学ばない自由」でもある。どのように選択しようかと、選択した結果を受け取るのはあなたである。



ICHIRO KATO

## 加藤一郎

経済学部教授。

1946年生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。京都大学博士（経済学）。1976年高崎経済大学経済学部専任講師。1989年より同教授。財政学、地方財政論を担当。財政学や地方財政論には、誰もが100%納得する答えがない問題が多い。自分なりの答えを、しかもより多くの人たちと共有できる答えを探ることが大事だと思う。そんな人のための手伝いのできたらと思っている。

(URL) <http://www1.tcu.ac.jp/home1/kato/>

